

腎臓内科

1. 診療科紹介

当院の腎臓内科では腎臓という臓器の観点から全身を診ることのできる医師になっていただきたいと考えています。すなわち、慢性腎炎・ネフローゼ症候群などの腎疾患、糖尿病・膠原病に伴う腎疾患、電解質異常、血液透析・腹膜透析の腎不全の代替治療の導入、維持透析患者の循環器系、消化器系など合併症のプライマリー、血漿交換などの血液浄化療法など、本当に様々な領域についての的確な知識の習得と経験を積み重ねるといふ研修ができます。

さらに慢性疾患の患者様を診療していく上で、看護師、栄養士、薬剤師、MSW等との密接な連携が重要であり、チーム医療の研修もしていただきます。

教育体制 研修責任者 神田 英一郎（日本腎臓学会指導医、日本透析医学会専門医）
スタッフ 常勤医師 4名
非常勤医師 4名

施設認定 日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会認定施設

2. 診療実績（年間）

外来患者数	腎疾患外来数	約3000名
	血液維持透析患者数	約80名
	腹膜透析患者数	約50名
入院患者数	責任病床数（30床）	
	総数	約180名
	血液透析導入患者数	20名
	腹膜透析導入患者数	10名
検査手術関係		
	腎生検数	約10例
	内シャント関係（造設、血栓除去等）手術数	約40例
	腹膜透析関係（カテーテル挿入、カテーテル抜去等）手術数	約15例
	血液浄化療法（血漿交換、吸着、白血球除去等）	約30例
	腹水濃縮	約6例

3. 研修内容

予定

1年目	経験	内科全般の研修、学会発表
	手技	腎エコー、CV挿入、透析用カテーテル挿入
2年目	経験	臨床に携わりながら、知識の確認、学会発表
	手技	エコー下腎生検、内シャント造設術、腹膜透析カテーテル挿入術
3年目	経験	臨床研究、学会発表
	手技	

研修項目

◎腎疾患に関する検査方法

- 尿検査を実施し、評価ができること。
- 血液検査の評価ができること。
- 尿生化学検査を評価できること。

腎機能検査を理解し、評価できること。
腎内分泌検査を理解し、評価できること。
腎臓超音波検査を実施し、評価ができること。
腎の放射線画像（X線検査、CT検査、MRI検査、腎血管造影、腎盂造影、腎の核医学検査）を理解し、評価できること。
経皮的腎生検検査を理解し、補助できること。
腎病理組織検査を理解し、評価できること。
尿細胞診検査を理解し、評価できること。

◎主な腎疾患の病態生理と診断

慢性糸球体腎炎（糖尿病、SLE等の全身性疾患に伴うものも含む）
間質性腎炎
尿細管性アシドーシス
急性腎不全
慢性腎不全
移植

◎腎疾患の治療

慢性腎炎に対する薬物療法を理解し、指示ができること。
保存期腎不全に対する薬物療法を理解し、指示ができること。
透析に対する薬物療法を理解し、指示ができること。
慢性腎炎に対する食事療法および生活指導を理解し、指導できること。
保存期腎不全（軽度腎障害も含む）に対する食事療法および生活指導を理解し、指導できること。
血液透析と腹膜透析との違いを把握し、それぞれに対する食事療法および生活指導を理解し、指導できること
輸液管理（特に無尿・乏尿の患者に対して）を理解し、実施できること。
血液製剤の使用の適応について理解し、実施できること。
血液浄化療法（血液透析、腹膜透析、急性血液浄化、血漿交換療法、吸着療法）の原理を理解し、指示ができること。
内シャント造設術の術式を理解し、術後管理ができること。
腹膜透析カテーテル挿入術の術式を理解し、術後管理ができること。

4. 週間予定

月曜日 モーニングカンファレンス
木曜日 クリニカルカンファレンス

手術、検査 木曜日に実施

5. 年間予定表

日本内科学会	4月開催
日本内科地方会	ほぼ毎月開催
日本腎臓学会	5月開催
日本透析医学会	6月開催
日本腎臓学会東部部会	10月開催
日本腹膜透析研究会	10月開催

6. メッセージ

習得すべきことがいっぱいあります。やる気のある人は乗り越えられるようしっかりとサポートします。是非一緒に臨床をしましょう。